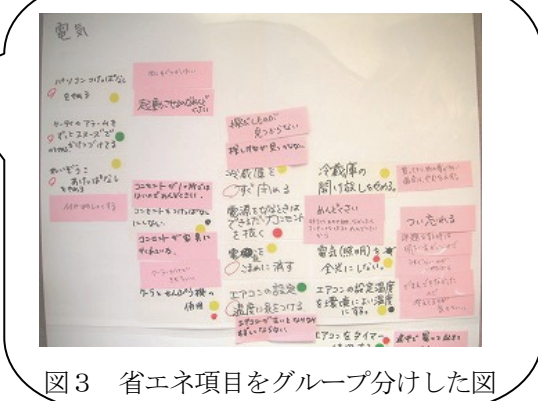
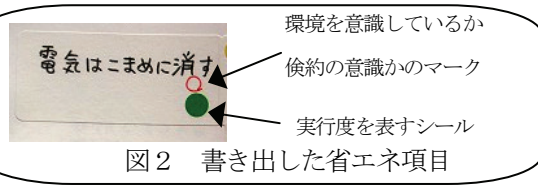
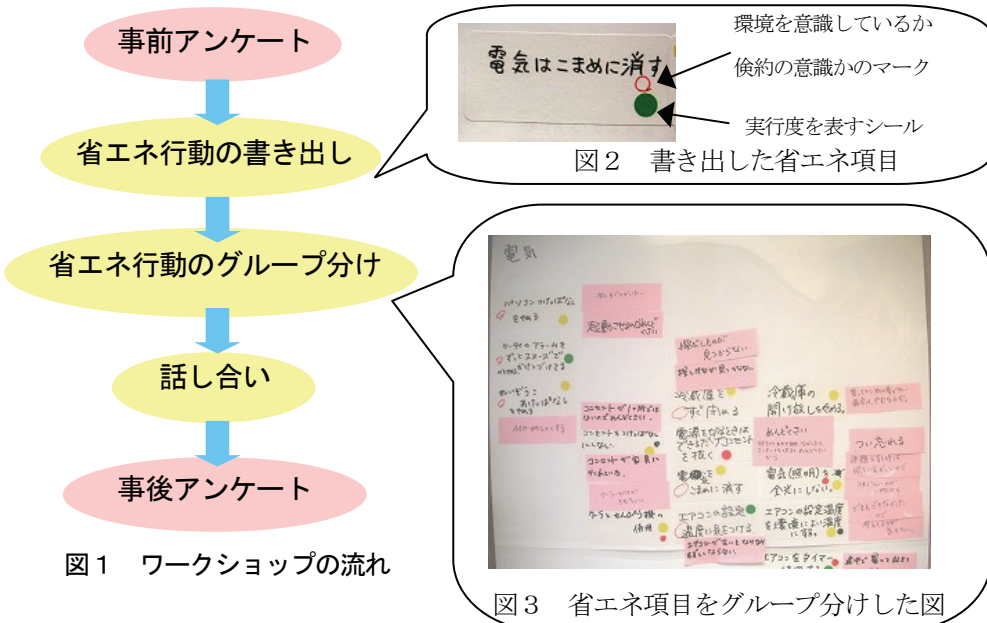


1. はじめに 近年、地球環境問題に対する関心が高まっている。環境省による世論調査では8割が地球環境問題に関心があり、地球温暖化防止のために行動すべきだと考えている。しかし、文献調査をした結果、環境問題に対する意識の高さほど省エネルギー（以下省エネ）などの行動が伴っていないことがわかった。よって、今後の環境保全にむけ、環境意識だけでなく行動も伴うためには、身近な生活面の個人レベルでの問題意識の向上が重要だと考える。そこで、本研究では、日常生活における省エネに対する意識と行動について、ワークショップ形式のヒアリングを行い、省エネ対策の行動に到らない要因について分析することと、行動できるようにするために解決案についても市民の視点から提案を行う。

2. ワークショップ形式のヒアリングの方法



対象
 プレワークショップ 主婦2グループ 9名 学生1グループ 3名
 ワークショップ 学生4グループ 16名
 家庭生活の中心となる主婦と文献調査で意識が低いとされ、将来子育てや家庭生活の中心になる確率が高く周囲への影響力もあると思われる女子学生を対象にワークショップ形式のヒアリング調査を行った。

3. ワークショップ形式のヒアリングの結果と考察 ワークショップ形式のヒアリングの結果を一覧にした物を図4に示す。また、特徴の出ている被験者を表1に示す

事前・事後のアンケートより、省エネに対する意識と行動の評価は、全体に省エネの意識の評価より行動の評価の方が低く、意識が高くても必ずしも行動が伴っていないことがわかった。また省エネに対する意識や知識が高いと、自己への評価が厳しくなる傾向が見られ、同じ評価をしていても省エネに対する意識と行動は必ずしも一致していないことがわかった。

図4 ワークショップ結果 一覧

グループ	被験者番号	電気				水				ガス				資源			
		空調・冷暖房	AV機器	冷蔵庫	その他	水	風呂	トイレ	その他	ガス	調理	風呂	その他	分別・回収	リサイクル	その他	
A	NO. 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
B	NO. 6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
C	NO. 10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
D	NO. 14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
E	NO. 18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
F	NO. 22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 23	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 24	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
G	NO. 26	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 27	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NO. 28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	項目数	7	3	3	1	6	17	1	1	3	1	3	7	1	1	2	1

表1 人ごとの分析

被験者	省エネルギー項目として知っている数(実行数○=1, △=0.5)	環境意識と知識	きっかけや背景
A	電気 : 2 (1.5) 水・ガス : 2 (1) 資源 : 6 (3.5) その他 : 2 (1)	項目数がほかの人比べて多く、環境問題を意識して行動している。知識も多いことが伺えた。リサイクル等の項目が多くあげられ、関心が高いと思われる。	母親が生活に密着した面で行動していた。また幼少期のガールスカウトの経験で水の大切さを意識した。知識を得ると実践したくなるので、多少手間やお金がかかってもできることはやっている。
B	電気 : 2 (1) 水・ガス : 1 (1) 資源 : 1 (1) その他 : 1 (0)	環境を意識してエレベータをなるべく使わないなど、できることはしよう、という姿勢が見られた。	子供のころから家族と科学の話をしたり、本を読んだりしていた。 小学生の時、海洋汚染について調べた。
C	電気 : 5 (2.5) 水・ガス : 1 (1) 資源 : 0 その他 : 0	項目が少なく、母親任せのためリサイクルなどに関してあまり意識していないと思われる。	小学生のとき、ごみ集積場を見学。母親は節約のためにコンセントを抜く、風呂に早く入るよう促すなどしている。
D	電気 : 4 (1.5) 水・ガス : 2 (1) 資源 : 2 (1) その他 : 0	環境、節約の両面であまり意識せず、思っているほど実行していない。	地球環境に関するテレビ番組を見るが、直接生活にはつながっていない。父親は自分の世代には関係ないといっている。家族全体としても環境の意識は低いと思われる。

省エネ行動をしていない人について、出来ない要因としては以下の3点があげられる。

- ① 面倒である。** (コンセントの位置が高い、家具の奥になっている、使用頻度が高いため、頻りに抜き差しするのが面倒である。)
- ② 部屋の環境** (西日がきつい、日の当たりが悪く暗いまたは寒いなど) や住居環境 (木構造か鉄筋コンクリート構造と戸建てかマンションか)、コンセントの位置や蛇口の形状などといった物理的な問題による。
- ③ 習慣 (家庭環境)** 特に意識せず行っている。

省エネ行動を比較的行っている人の背景は主に以下の3点があげられる。

- ① 幼少期の教育。** ガールスカウトや学校教育によって地球環境に対する意識が高まり、行動に直結していく。
- ② 親 (特に母親) の影響** 母親が日常生活の中で省エネをしており、習慣として身につく。また、家族で環境について話したり、環境保全運動に参加したりすることでも環境意識が高まる。
- ③ 家庭管理の責任** 主婦となり家庭を管理する立場になることで節約や省エネを意識するようになる。

4. まとめ 省エネに対する意識と行動の高い人は、幼少期にガールスカウトや地域のごみ拾いなどの活動の経験や家庭での省エネ行動の影響が大きいと思われる。省エネの効果が高い低いに関わらず、実行しており、特に主婦の場合は家族に対する影響力が強いと思われる。また、節約を重視し、省エネ行動を行っている人の多くはテレビや新聞などのメディアによる情報を参考に実践している例が多いが、手間や我慢を要する行動は一時的な行動となる場合が少なくないと思われる。環境保全の意識に比べ、節約では効果が実感できるため、環境保全の意識が低い人への省エネ実行のきっかけになるが、その後環境保全の為の省エネの意識をさらに高める必要がある。

省エネに対する意識と行動が低い人は、多くの方が、今まであまり省エネを意識した事がなかったと答えており、環境保全や省エネに関して、メディアなどの一方向の情報ではなく、周囲の人や環境によって省エネに関して考える機会を作ることが省エネに対する意識を高める上で重要だと考えられる。

効果が高く、実行しやすい項目

- すだれ・カーテン・ブラインドなどの利用。
- 冷暖房の使用を控え、温度設定に気をつける。
- ホットカーペットを半分で使用する。
- 照明をこまめに消す。
- ごはんを保温のままにしない。
- 使用していない機器のコンセントは抜く。
- 洗濯はまとめて行う。
- シャワーを使いすぎない。
- お風呂のお湯はあふれない程度にためる。
- 物を大切に。(最後まで使う)